

注意点1



少し複雑な5連符のリズムの取り方

このフレーズで登場する5連符とは、1拍を5つに分けたリズム。数学的に“5”という数字は計算しやすい数字だが、音楽的にはそうはいかない。5連符は半分に分けることができないので非常にリズムが取りづらいのだ。そこで“イケブクロ”などの5文字の言葉を言いながら練習すると良いだろう(図1)。こうすることで、1拍に収める音のリズムが見えてくるので、フレーズを把握しやすくなる。また、1拍目と2拍目で5文字の言葉の頭文字を変える、さらに拍子の変化がわかりやすくなる。ぜひ試してもらいたい。

図1 5連符のリズムの取り方

5文字の言葉を言いながら弾くとリズムが取りやすい。

注意点2



1本弦に対して3音入れる超絶ベンタのポジション

一般的にペンタトニック・スケールは、1本の弦につき2音を入れるボックス・タイプを使用することが多い(図2-a)。これは、ブルースなどチョーキングを多用するスタイルにハマるからだろう。ところが、80年代後半から登場した超絶プレイの流れとともにベンタの捉え方が少しずつ変わってきた。1本弦に対して3音を入れるワイド・ストレッチ(図2-b)で弾くパターンが出現し、ポール・ギルバートやフランク・ギャンパレなどが多用している。特にギャンパレは圧巻で、ベンタをコード・トーンのようにスウィープやエコノミーで弾くのだ。ぜひ読者もベンタのポジションをいろいろと研究してもらいたい。

図2-a ◎ ルート音=E

Eマイナー・ペンタトニックの1本弦に対して2音を入れるボックス・タイプ

ブルースなどチョーキングを多用するスタイルに合う。

図2-b

Eマイナー・ペンタトニックの1本弦に対して3音を入れるボックス・タイプ

80年代以降のテクニカル・ギターに合う。

注意点3



上昇スウィープ・フレーズは中指を中心に移動させよう

このフレーズを弾く際にまず注意してほしいポイントは、1小節目の1音と3音を1本弦ごとに交互に弾きながら上昇するフレーズだ。写真は1 & 2拍目となっているが、5弦14フレット(小指)から4弦12フレット(中指)、3弦9フレット(人差指)へとエコノミー・ピッキングでつなげている。ここでは、4弦12フレットを押さえる中指を中心にフレーズをつなげていくと、ストレッチと弦移動がバランス良くできるだろう。3 & 4小節目には、5音を3音と2音という形で2本弦に分けた下降フレーズが登場する。5連符だが、それぞれの弦でオルタネイトを1回ずつ行なっている、リズムは取りやすいだろう。



1 小指による押弦。他の指もスウィープ体勢に入ろう。



2 中指による押弦。指を広げて人差指の押弦準備を。



3 人差指による押弦。隣接弦のミュートを忘れずに。



4 中指による押弦。ここでも人差指で余弦のミュートをする。